

原案

一緒に変えよう政策はある。

○○○○党

もう気づいて！

もう毒を食べないで！

「お菓子が欲しい〜」と子どもから言われれば、時には「大人しくしてもらうために〜」という理由で、あるいは「可愛い子どものお願いだから〜」と、つついとお菓子を与えてしまうのが大人の情けというものです。まったくお菓子を食べない子どもというのは、おそらく豊かな先進国にはいないことでしょう。

しかしもしも「そのお菓子には毒が入っていますよ」と言ったら、どのような感想を抱くでしょうか？

きわめて恐ろしい真実を述べますが、市販で売られているお菓子の多くに、実は毒が入っております。そしてそのことを知らずに、子どもたちをはじめ日本国民は口にしていきます。いや、私たちが日々、食べている普通の食事にも、実は大量の毒が盛られているのが悲しき現実です。

子どもの健康を守るため、そして愛する人や自分の命を守るためにも、どうか知ってもらいたいこと

があります。

『WHO（世界保健機関）』の下部組織に『IARC（国際癌研究機関）』というところがあります。

この『IARC（国際癌研究機関）』が、毒性や発癌性の懸念があると発表している成分に「グリホサート」というものがあります。

はつきり言います。「グリホサート」は毒です。

しかし米国民も、私たち日本国民も、この「グリホサート」を毎日、食べてしまっています。特に子どもが食べています。

アメリカにおいて、131人を対象に調査したところ、被験者93%が尿から「グリホサート」が検出され、しかも特に子どものほうが、汚染濃度が高いことが分かっています。なぜなら同じ分量の食事をして、子どものほうが体が小さいために、「グリホサート」に汚染され易いからです。

「グリホサート」がおよぼす健康への被害は、まず「癌」であり、そして「精子」や「卵子」といった生殖機能障害にもおよびます。その他にも、喘息、

セリアック病、免疫力低下、腎臓機能障害、肝機能障害、消化器疾患、糖尿病、心臓病、自閉症、アルツハイマー、うつ病など、実に多くの健康被害があります。それが「グリホサート」であり、私や貴方が常日頃から食べている物の中に含まれている成分です。

「どういうこと？なぜ食糧を通じて、わざわざ日本人は毒を食べているの？」と、そのように疑問に思われることでしょ

う。
実は日本は世界一位の遺伝子組み換え食物消費国です。そのために、すでに私たちの身の回りには、たくさんの遺伝子組み換え食品が並んでいます。つまり日本人の



食卓には、多くの遺伝子組み換え食品が並んでいる、ということなのです。特にお菓子の原料に多くの遺伝子組み換え食品が使われているために、お菓子を良く食べる人ほど、遺伝子組み換え食品を食べていることとなります。

『モンサント社』、この一社だけで世界の90%の「遺伝子組み換え食品」を作っています。

そして『モンサント社』は、90日間、遺伝子組み換え食品の大豆を、マウスに与える実験を行なつて、「何も問題はない」と発表しました。しかしフ

ランスのカーン大学のセラリーニ教授たちの研究

チームが200日間、モンサントの遺伝子組み換え大豆をマウスに与え続けたら、なんとゴルフボールのような腫瘍がボコボコと出来上がったのです。しかも遺伝子組み換え作物を育てている畑の近くに住んでいる少女は、全身がホクロだらけになつ



てしまい、世界中を驚かせ、そして悲しませました。

アメリカの甲状腺癌の発生率と遺伝子組み換え食品が増加していく推移

を見れば、やはりどう考えても遺伝子組み換え食品は安全には思えません。なぜなら私たちは、90日どころから毎日365日、約八十年の人生にわたつて食べ物を口にするからです。



除草剤から癌に！

しかしそもそもなぜ人類は、食品の遺伝子を組み換え始めたのでしょうか？『モンサント』はなぜ遺伝子に組み換え食品を、世界中で販売しているのでしょうか？

かつての農家ならば雑草が生えてくれば、その雑草を一つ一つ手で取らねばなりません。しかしそれでは手間がかかり、人件費もかかります。そ

ここで『モンサント』という巨大な食品会社は、雑草を枯れさせてしまう強い「除草剤」を開発しました。広大な土地に、飛行機で空から「除草剤」をまくわけです。しかし強い「除草剤」をまいたら、育てたはずの作物も一緒に枯れてしまいます。そこで「生物の遺伝子を組み換える」ということが行われ始めたわけなのです。つまり作物を強い「除草剤」にも耐えさせるために、大豆やトウモロコシ、菜種、綿などの遺伝子が組み換えられたわけです。

しかしこの『モンサント』こそ、ベトナム戦争の際に、米軍が空からまいた「枯葉剤」を造っていた会社でした。ベトナム戦争中、米軍は森林の中で行うゲリラ戦に悩まされました。そこで「森林を丸ハゲにしておもう」と、空から強烈な「枯葉剤」をまきました。これによって森林が丸ハゲになる変わりに、その地域に住む人々は健康を害し、生まれた子どもたちには様々な奇形がみられたのです。「ベトちゃんドクちゃん」と言えば、記憶されている方もいるのではないのでしょうか？

『モンサント』こそがベトナム戦争でまいた「枯葉剤」を造っており、そして遺伝子組み換え食品を育てるために撒かれる「除草剤」も、実はもとを辿ればこの「枯葉剤」だったのです。

そして『モンサント』が製造する「枯葉剤」ならぬ「除草剤」が「ラウンドアップ」という製品です。この「除草剤ラウンドアップ」は市販でも売られているために、ホームセンターなどで買うことができます。そして「ラウンドアップ」の除草剤はすべて、発癌性が云われている「グリホサート」を含んでいます。

つまり「遺伝子組み換え」が良いか悪いかという議論の前に、除草剤「ラウンドアップ」に含まれている「グリホサート」に最大の問題があるわけです。

「グリホサート」を有効成分とする除草剤は、「世界で最も人気の除草剤」として全世界で販売されており、一般



家庭や学校など公
共施設向けの製品
も多くあります。

しかし「トランプ
革命」の影響からか、
2018年8月1
0日、サンフランシ
スコの裁判所は、原
告側の主張を全面
的に認めて、『モン

サント』に対して総額約320億円の賠償金を支払
うよう命じました。

『モンサント』を訴えていたのは、サンフランシ
スコにある学校の校庭を管理していたドウェー
ン・ジョンソンさんです。彼は校庭の整備のために、
『モンサント』の除草剤「ラウンドアップ」を数年
にわたって使用し、それが原因で癌の一種である悪
性リンパ腫を発症したとして、『モンサント』を訴
えていました。そして裁判では「ラウンドアップ」



の主成分「グリホサート」に、発癌性が考えられる
にもかかわらず、『モンサント』はその危険を十分
に伝えていなかったとして、原告側の訴えを全面的
に認めたのです。

フランスの環境相はこの判決を受けて、「多くの
内部告発者が、グリホサートの危険性について長年
訴え続けてきたことを裏付けるものだ」と述べまし
た。フランスでは「グリホサート」を主原料とした
除草剤の販売禁止が決定しています。

「グリホサート」は毒だからです。

溢れる遺伝子組み換え食品

日本の大手小麦粉メーカー3社を対象に、「グリ
ホサート」の検出調査を行ってみたところ、見事に
「グリホサート」が検出されました。この大手3社
は学校給食にパンなどを納品してもおります。つま
り私たちが学校に子どもたちを送り出し、そして給
食を食べさせる度に、子どもたちは毒を喰らってい

るわけです。

日本の食糧自給率は非常に低いために、日本は大量の食品を外国から輸入しており、実は『モンサント』にとって、日本は世界最大の取引先国です。日本では、大豆、ジャガイモ、ナタネ、トウモロコシ、わた、てんさい、パイヤなどの通称『GMO（遺伝子組み換え食品）』が輸入されています。

遺伝子組み換え食品には、「遺伝子組み換え」の表示義務はありますが、しかし遺伝子組み換え作物を原料に使用して、加工された食品の場合、いくらでも抜け道があります。食用油、しょうゆなどがすでに遺伝子組み換え加工食品にも関わらず、表示がないのはそのためです。

とくに日本人は、しょうゆ、納豆、豆腐、味噌な



どで、大豆を良く食べる食文化があるために、実はすでに多くの遺伝子組み換え作物が、これらに使われています。

遺伝子が組み替えられたトウモロコシは、人間の食用、あるいは家畜のエサとしてのみならず、原料にも加工されるために、すでに大量輸入されています。

日本の食卓が汚染されているこの危機の時代を乗り切り、子どもたちの未来と健康を守るために、どうか男性も覚えてください。「コーンスターチ」です。トウモロコシから加工されたこの「コーンスターチ」は、実はすでに日本の食材のありとあらゆる原料になっております。

カマボコ、チクワ、てんぷら粉、お好み焼粉、ベークイングパウダー、即席麺類、冷凍麺、缶詰スープ、冷凍卵焼き、ソース、マヨネーズ、スナック菓子、米菓子、ビスケット、カレールー、その他のインスタント食品、ビールなどなど・・・実はあげればキリがありません。

しかもコーラ、発酵乳酸飲料、フルーツジュース、清涼飲料、ポン酢などの調味料、ドレッシング、パン、アイスクリームなどの成分表を、どうか一度、ご覧になってください。必ずと言って良いほど、「ぶどう糖果糖液糖」、あるいは「果糖ぶどう糖液糖」と書かれているはず。そしてこの「ぶどう糖果糖液糖」、「果糖ぶどう糖液糖」、2つを総称して「異性化糖」と云うのですが、実はこの「異性化糖」の原料も90%以上は、やはりこの「コーンスターチ」なのです。つまり私たち日本人の食卓には、実はかなりの量の遺伝子組換えトウモロコシが、「コンスターチ・異性化糖」に化けて、すでに上つているというわけ。す。

原材料として遺伝子組換え作物を使用しても、使用した量の4番目以降の原材料ならば、表示義務はありません。また全体の重量の5%未満で遺伝子組換え原材料を使用しても、やはり表示義務がありません。

しかも卵、牛乳、肉などの畜産物には、もともと

表示義務はありません。食肉生産のエサは大豆やトウモロコシが使われており、これらはほぼすべて遺伝子組換えですが、食肉にはエサの表示義務がありません。

企業はコストを下げるために、ぞくぞくと遺伝子組換え食品に手を出しており、しかもなおかつ「見事なまでに表示義務をすり抜けている」、それが日本の惨状です。ですから「この食品も!？」ということがたくさんあります。

しかも厚生労働省は、すでに日本国内において『モンサント』の遺伝子組換え作物の栽培を許可しています。そのために茨城県稲敷郡河内町には、「日本モンサント隔離ほ場」があります。

なぜ日本人は毒を喰らうのか?

こうしたことから、世界中の市民団体がモンサント・遺伝子組換え食品の危険性を訴える講演を行ったり、さらには大規模の世界同時多発デモが行わ

れたりもしました。2015年5月には世界48カ国、400都市以上で、反モンサント・反遺伝子組み換え食品の大規模デモが行われました。

しかし日本人は毎日、「グリホサート」という毒を喰らいながらも、何も知らされていないために、日本ではデモが行われませんでした。

おそらく日本人も事実を知れば、かならず『モンサント』が私たちに提供し続ける遺伝子組み換え食品を、断固として拒否することでしょう。



しかしなぜ、日本は世界最大の遺伝子組み換え食品消費国であり、日本人こそ毒を食べておりながらも、その遺伝子組み換え食品の恐怖どころか、『モンサント』の名前さえ知らないのでしょうか？

それはテレビや新聞、あるいは『電通』などの広告代理店などと縁が深い『経団連』に原因があります。なぜなら大手マスコミに広告を出すのは、それらを見たり、読んだりする私たち読者や視聴者ではなく、大半が大手企業だからです。

ですから実は大手マスコミというのは、読者や視聴者の方を向いているように素振りだけは見せておきながらも、実のところ本当に向いている方向は、『経団連』などに名を連ねる大企業なのです。

そして『経団連』の前会長は米倉弘昌という人物でした。そして彼は『住友化学』という会社の会長であり、この『住友化学』という会社は、『モンサント』と業務提携を結び、利益を共に追究する会社なのです。

つまり日本の『経団連』は、すでに『モンサント』

とかなり深い繋がりがあるわけです。すなわち『モンサント』、『住友化学』、『経団連』、『電通』、『T Vや新聞といった大手マスコミ』、こうしたお金の流れが、見事なまでに出来上がっているわけです。

そのために日本の大手マスコミは、『モンサント』と遺伝子組み換え食品の危険性について何も報じません。

そして『経団連』、『大手マスコミ』は、『腐敗した政権』の応援団です。

だからこそ日本は世界最大の遺伝子組み換え食品消費国であり、子どもから大人まで「グリホサート」という毒を食べ続けておりながらも、遺伝子組み換え食品の危険性について何も知らずに癌にかかり、死にながらも医療業界、保険業界を潤わせているわけです。

ちなみに『モンサント』の「とねのめぐみ」、その『モンサント』と業務提携をする『住友化学』の「つくばSD1」、あるいは『三井化学』の「みつひかり」、これらは共に「品種改良米」です。そし

てこれらの米は「遺伝子組み換え米」そのものではないとはいえ、強度の農薬にも耐えられて、収穫量も通常の2割から4割は多く採れる「人工米」であることには変わりありません。

そして『モンサント』の「とねのめぐみ」は、『東日本キオスクNEW DAYS』で、『住友化学』の「つくばSD1」は『セブンイレブン』のおにぎりに、『三井化学』の「みつひかり」は『吉野家』の牛丼に、それぞれすでに使用されています。

ですから私たち日本人は、もうすでにごく自然に、そして何も知らずに、民間企業が作り上げた「人工米」を口にしているわけです。

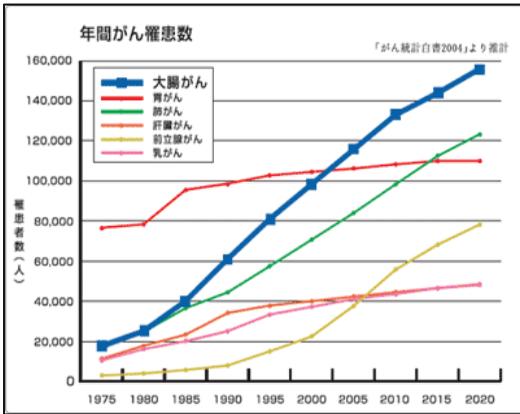


激増する癌死亡者との因果関係？

このように、すでに日本の食はかなり汚染されています。

ですから日本人は、直接的、間接的を問わず、ほ

ほぼ毎日、遺伝子組み換え作物を食べること、「ゲリホサート」という毒を食べていることになります。遺伝子組み換え食品を取り扱った『キングコーン』という映画は、実に興味深いことを述べております。アメリカ人の髪の毛をDNA検査した結果、アメリカ人の肉体の大部分はトウモロコシで出来ているそうです。もちろんアメリカ人も野菜や肉も食べているのですが、しかしDNAの分析結果は、ほぼトウモロコシでした。なぜならトウモロコシから様々な原料が何でも作られているからです。そしてそのトウモロコシの大半が遺伝子組み換え食品であり、そして「ゲリホサート」に汚染されたものです。そ



の遺伝子組み替え食品の惨状を明らかにする映画では、こう言うのです。「僕たちは歴史上初めて、親たちより長生きできない世代になるかも知れない」と。しかし日本こそGM^{遺伝子組み換え食品}Oの最大消費国です。そしてたしかにアメリカでも、日本でも、若くして癌で亡くなる人が激増しております。今、生涯のうちで「癌」と診断される日本人は2人に1人です。癌で亡くなる人の数は激増しており、1980年代と比べると2倍、一か月に約4万人、年間では45万人であり、これは戦争よりも多い数字です。

この「食品戦争」に勝利するためにも、どうかGMOから生命を守る方法を知ってください。

GMOから生命を守る方法

人間は毎日、たとえ健康な人でも、体内で3000から6000個の細胞が癌化しております。しかし体内で発生したこの癌細胞を、同じく人間

の体内に存在している。NK細胞という細胞が、やつつけてくれています。NK細胞が毎日癌化した細胞を、やつつけてくれているからこそ、私たちは癌で死なずに助かっているわけです。

そしてこの癌細胞を、倒してくれるNK細胞は、心が平安で、穏やかで、安らかな時ほど、活発化すると云われています。

つまり心と体は繋がっており、心の平安が体の健康を築いて守るのです。

しかし人生には必ず苦難と困難がやってきます。悲しみや苦しみの無い人生など一つもないことでしょうか。

「人間関係の葛藤」、「仕事上での悩み」、「未来への不安」、「現在の不満」、「過去の失敗や挫折といった心の傷」など・・・、人生には必ず苦しみや悲しみがあります。

人生は一冊の問題集です。

そのために時に私たちは、心の平安が破られて、心が散り散りに乱れることもあります。

これだけ私たちの身の回りには、毒が入り込んだ食品が氾濫している中で、しかも毎日、細胞が癌化しているのだから、苦しみや悲しみなんて人生に訪れなければ、心をいつも平安に保って健康に生きていけるというのに、しかし人生には必ず苦しみと悲しみがやってきます。眠れぬ夜を過ごし、天井をみつめて、深くため息をすることは、誰の人生にもあるものです。

そのために現代にはウツになる人も多く、大勢の人が「精神科」に行き、「クスリ」に頼って、心に平安を築こうとしております。

しかし本当に「精神医学」と「クスリ」で、私たちの心の平安は築かれるのでしょうか。人間関係の葛藤、仕事上での悩み、未来への不安、現在の不満、過去の失敗や挫折といった心の傷が、本当に医者が処方する「クスリ」で解決するのでしょうか。そして心に平安が取り戻されて、体も健康になるのでしょうか。

いえ、「人生」という名の一冊の問題集を解いて

いくものは、「クスリ」とはまったく別のものです。

私たちの心に平安を築き、そしてその心の平安を保ち、そしてNK細胞を活性化させて、毒が混入した食品から私たちの生命を守ってくれるもの、それは「サトリ」です。

不景気が続いておりますから、「お金さえあれば悩みは解決するのにく」と考える人もいるかもしれませんが。もちろんお金は大切です。しかしお金がたくさんあっても、人間関係に悩みを抱えている人もいれば、孤独に打ち震えている人もいれば、心に傷を負っている人はおります。

「悟り」という名の人間としての成長が、人間関係の喜びに変え、仕事上にやりがいを感じさせ、未来に希望を抱かせ、現在に感謝を抱かせ、過去の失敗や挫折といった心の傷を優しさと強さに変えてくれるのです。

人間としての真の成長、それが「悟り」であり、「悟り」とは魂の成長のことです。

人は常日頃から「クスリ」ではなく、「サトリ」

こそを求めて、心に平安を築き、その平安を保つとともに、体を健康にするべきなのです。

なぜなら「悟り」が心の平安を守り、そしてNK細胞を活性化させることで、毎日、癌化している3000から6000個の細胞をやっつけて、私たちの健康を守ってくれるからです。

心と体は繋がっているために、悟りがGMOから生命を守ってくれます。

遺伝子組み換え食品から国民を守る！

遺伝子組み換え食品から健康を守る道は、主に3つです。

1つ目は、よくご自身で調べて、なるべく遺伝子組み換え食品を口にしないことです。ご家族やご友人と「情報共有」することも大切です。

2つ目は、心の平安を築く努力をし、そしてそれを保つ努力をしていくことです。すなわち人生という名の一冊の問題集を解くべく、「悟り」を求める

ことです。人間としての成長、魂の成長、悟りを常日頃から追い求めて、そして心穏やかに安らかに生きていくことです。

3つ目は、危険な遺伝子組み換え食品を世の中から無くしていくことです。つまり日本国民を遺伝子組み換え食品の脅威から守ってくれる政党を選ぶことです。

わたしたち『幸福実現党』は、フランスと同様に、「グリホサート禁止法」を制定することで、「グリホサート」を主原料とした除草剤の販売禁止を求めてまいります。

そして「食品安全基本法」および「食品衛生法」を改正することで、遺伝子組み換え食品の表示義務を徹底してまいります。一般的に広く流通する食品の中に、どれだけの遺伝子組み換え食品が使用されているのか、それを明記することを義務づけることを目指してまいります。

また子どもたちが食べる学校給食においては、遺伝子組み換え食品の使用を禁止します。

そして何よりも、国民が「グリホサート」の危険性を何も知らずに、遺伝子組み換え食品を食べる事態を無くすべく、この危険性を広く国民に知らしめてまいります。腐敗した政権とマスコミを改革していきます。

わたしたち『幸福実現党』は、食料による脅威からも、経済的な脅威からも、国防の脅威からも日本国民を守る政党であります。ゆえにわたしたちは、国民から貧困、病気、戦争といった不幸を遠ざけて、そして幸福が実現されるのであるならば、いかなる努力と精進も惜しまない政党です。

わたしたちは日本国民を幸せにすることの権利を主張している政党ではなく、幸せにすることの義務を主張している政党であります。

日本を、日本国民の皆様を、そして神仏を愛しているから黙っていられない、それが『幸福実現党』です。

宗教とは人間の原点

しかしわたしたち『幸福実現党』は、立党以来十年、国政選挙で負け続けて、そのために日本の皆様を幸福に誘っていくことが実現できておりません。

それはおそらく「宗教」による偏見も大きいことでしょう。

しかし「宗教」こそ、「悟り」という名の人間としての成長、魂の成長を人々に与えてくれるのです。では、「宗教」とは、果たして何でしょうか？

1920年のインドにおいて、アマラとカマラという2人の少女が見つかりました。彼女たちはオオカミに拾われ育てられたがために、5、6歳で人間に発見された時、なんと話すことも、二足歩行もできずに遠吠えをし、暗闇でも四足で走り、共に幼いうちに亡くなってしまいました。

この話が何を意味するかと言えば、「人間には教育が大切である」ということです。

では、人間を人間たらしめて、そして人を人とし

て成長させてくれる教育とは、果たして何でしょうか？国語は言葉を教える教育です。算数や数学は数の教育です。科学の本には、原子力発電所や核兵器の作り方は書かれていても、それらを使いこなす人間の欲望の暴走を止める手立て、もしくは平和を築く愛の心についても何も説かれてはおりません。ですから国語も数学も科学も、「人間に善悪を教え、人の精神を養い、心を育てて徳を授ける」という教育そのものではありません。

では、私たち人間を、人間たらしめて、そして人として成長させてくれる「人間教育」とは果たして何でしょうか？表現を変えれば、私たち人間の心を豊かに育てて平安を築き、徳を授けてくれる教育とは、一体なんでしょうか？

「経験」、それもたしかに教育の一つです。

しかしもしも私たち人間が、「経験」だけに頼って、人類が人格者へと成長できるのであるならば、この青くて美しい星には、貧困も、差別も、紛争も無いでしょう。それに何よりも、「経験」だけに頼

つて生きると、時に授業料が高過ぎて、人によっては自らの人生を、自らの手でもって破滅させてしまふことも少なくありません。

アマラとカマラも「経験」ならばしていますから、やはり私たち人間には、自らが得る「経験」以外にも、他から受ける「教育」が必要です。

人間の心を育て、高潔なる精神へと鍛え、徳を授ける教育とは、実は神道、儒教、仏教、あるいはユダヤ教、キリスト教、イスラム教といった宗教なのです。人の心を豊かに育む教育、それが愛とか、反省とか、信仰とか、そういった「聖なるもの」を教えてくれる宗教なのです。

人は「聖なるもの」を学ぶことで、神性、仏性を磨き、獣性を捨て去って、神仏へと近づいていけるのです。

しかも、たとえば、「貴方はどうやって善悪や道徳を学んできましたか？」と尋ねれば、誰もが、「両親、先生、そして経験」と答えるでしょうけれども、しかしその両親や先生も、さらに両親や先生から、

善悪や道徳を教わってきたのであり、こうやって遡っていきますと、ヨーロッパではキリスト教、アジアでは仏教に突き当たるのです。

日本には神社が8万社もあり、お寺は7万6千もあり、合計で15万6千も神社仏閣があり、そしてかつての日本の子どもたち、つまり私たちの祖父母の世代までは、寺子屋や小学校において、「子曰く」とか、「義を見てせざるは勇無き也」と『論語』を諳じていたのです。ですから宗教とは、「人間の原点」であり、「文明の源流」であります。

人間には幸せになる義務があります。これは権利ではなく義務です。しかしすでに述べましたように人生とは一冊の問題集ですから、かならず幸せを妨害する苦しみや悲しみが訪れてまいります。だから「悟り」を追い求めるべきなのです。

そして「悟り」を与えてくれるものが宗教であり、私たち『幸福実現党』は日本の皆様を幸福にする義務を主張している政党です。

変えましょう。政策はあります。

嘆願

以上が、わたくし与国秀行が提言する新たな政策です。

主婦層は大半がノンポリです。そしてノンポリ層には、なかなか国防問題は届きません。ですから「最も身近な毒の存在」を伝えて、政治的な目覚めを促していく必要があると私は思います。

そして少しでも政治的な目覚めが始まっていけば、次に水道の問題、医療の問題、そして精神医学の闇を伝えていくことで、善悪の逆転を目指していくことが大切であると、私は考えます。

今、日本には「新興宗教に行くことは危険、精神科に行くことは安全」という、まったくバカげた間違った価値観があります。

まさに善悪の価値観が逆転しているのです。常識が狂っているのです。ならばその価値観を破壊して、新たな価値観を創造し、常識を逆転させなければなりません。

その創造的破壊のはじめの戦略として、「毒が混入された食品・GMO」によって、ノンポリ層を政治的な目覚めへと促していくべきであると、私は考えております。このGMOの話には、主婦層・ノンポリでも飛びつきます。

唯物論が跋扈している時代ですから、この話を街頭ですると、人々は顔面蒼白になります。

そしてこうした戦略を行っていくために、政策として「グリホサート禁止法」などが必要であると思う次第であります。なぜなら「戦略」と「政策」は連結しており、「戦略」は「政策」から生まれてくるからです。

善悪の価値観を創造的に破壊し、常識を逆転させて、『幸福実現党』が大勝利を成し遂げていくためにも、ぜひとも政策の中に、「グリホサート禁止法」などを盛り込むことを、ここに嘆願いたします。

幸福実現党 党員 与国秀行